

第2学年 美術科 学習指導案

平成28年12月1日(木) 第5校時
場 所 美 術 室

1 題材名 「手作りを味わう喜び」～機能のある小物作り(木材加工)～

2 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、表現活動において積極的に自分で課題を解決し、制作を進めていこうとする生徒が多い。しかし、教師からの援助、助言がないと自主的な制作が困難な生徒もいる。これまでの授業では、苦手意識が強く活動に消極的になりがちな生徒には、各々の実態に応じて指導や助言を丁寧に行ってきた。しかし、まだ十分に意欲を高められているとは言えず、引き続き指導や支援が必要である。本題材でも、具体的に手立てを工夫し個に応じた支援を行ってきている。

これまで生徒は、第1学年時の造形活動で、平面〔デザイン・遠近法・人体クロッキー〕と立体〔彫塑〕工芸〔消しゴムハンコ〕に取り組み、用具や描画材料の扱い方、色彩感情、構成などの造形の基礎的事項について学習してきた。また第2学年時の1学期には、「心に残る風景」という題材で風景画を制作した。本題材では、「工芸」ということで、厚さの異なる2枚の板から、「使える小物」を制作する。これまでの学習を生かし、発想・構想の段階では試行錯誤を繰り返しデザイン決定・設計図をつくり、加工の段階においては、材料や用具と真剣に向き合い取り組んできた。一人一人の思いが実現できるように、参考作品の展示でイメージを広げさせることや、制作のヒントの掲示等で支援の手立てを工夫するなど、適切な指導を実践していく。

(2) 本題材を指導するに当たって

日本人は古来より、豊富な緑に恵まれた国土の恩恵にあずかりながら豊かに暮らしてきた。中でも「木」は、日本人の生活に数多く用いられ、日本独自の歴史や文化を築く礎となった。現在、私達はプラスチックやシリコンなどの化学素材に囲まれ、便利な生活を送っている。それに伴い、古来よりある日本の木製品と触れる機会が減ってきている。美術の教材でも、キット教材や目新しさが中心の教材が増えてきている。今回の工芸制作にあたり、まずは生徒に、木の温かさやぬくもり、日本人が創ってきた木の文化や知恵について伝えることが重要である。本題材では、桂板 10×150×360mm と、アガチス板 5×100×600 の2枚の板材から、形を切り出し、組み立て、自分の生活の中で使用するものを制作する。シンプルな材料だからこそ、目的にあわせ、自由な発想で思い思いの形を切り出して制作することができ、生徒の独創的な発想や構想の能力を高めるものであると考える。「使いたいから作りたい」「ずっと置いておきたいから作りたい」という気持ちこそが制作に対する意欲を高める。使用目的を自ら考え目標を設定することで、意欲が高まり、試行錯誤しながら粘り強く制作することができる。また、やすりをかけ、木肌が美しく変化していく過程は生徒にとって充実した時間となり、愛着がわき、作品を大切に扱うようになると思う。

本時では、作品にこめられた思いや意図を味わい、よさや美しさについて主体的に話し合う鑑賞を設定した。今回の授業を通して、自然の恩恵や命の大切さを考えさせながら学習させ、生活を美しく豊かにする美術の働きや生活文化に対する関心を深めていきたい。

3 研究主題との関わり

研究主題 基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育成する授業の工夫改善

〈工夫1〉参考作品の展示や、制作のヒントを掲示することで、創作意欲をかき立て、工夫しながら楽しく制作できるようにする。

〈工夫2〉相互鑑賞会において、作品のよさや美しさを感じ取り味わえるように、事前準備やプリント内容を工夫し、主体的な活動を促す。

4 目標及び評価規準

(1) 目標

木材の特性と用途を考えた表現に関心をもち、「使いやすく美しい形」を目指して表現の構想を練り、表現方法を工夫して創造的に表現する。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

ア 発想や構想の能力を働かせる場面では、目的や機能だけでなく、生活が豊かで楽しくする形や、木の特性や肌合いの表現効果を意識して構想を練る。

イ 鑑賞の能力を働かせる場面では、目的や機能と形の調和や美しさ、つくり手の意図などを、想像力を働かせながら味わい、鑑賞する。

(3) 本題材における評価規準

◆「努力を要する」と判断される状況（C）の生徒への支援
※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

美術に関する関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
関 目的や機能を考えて表現することに関心をもち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり木材の特性を生かしたりしようとしている、 鑑 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさ、つくり手の意図や願いなどに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	使用目的の機能を保ちつつ、 <u>造形的な美しさなどを形や色彩の効果を生かして総合的に考え、表現の構想を練っている。</u>	感性や造形感覚などを働かせて、木材の特性を生かし、用具の使用方法を考えながら、制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって表現している。	感性や想像力を働かせて、 <u>目的や機能との調和のとれた美しい形や色彩などを感じ取り味わい、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めている。</u>
◆参考作品を紹介し、自分のイメージを広げるようにする。	◆自分の生活に生かす視点や、シンプルでも形の美しさがあれば、よい作品になることについて助言する。	◆個別に対話をしながら生徒の思いを聞き、表現の工夫のヒントや技法について指導する。	◆鑑賞するための手がかりや視点を示したり、機能を説明したりして、作り手の意図や願いに気付かせるようにする。

5 指導計画・評価計画（本時 11 / 11時）

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 参考作品を鑑賞し、工芸や木のよさについて興味や関心をもつ。 （1時間） ・教科書や資料、参考作品の鑑賞	○			○	関 鑑 発言、表情 記述
2 目的や用途、板材の特性を基に主題を発想し、形を構想する。 （2時間） ・アイデアスケッチ～デザイン決定	○	○			関 発 表情、対話 観察、表情 プリント（スケッチ）
3 木材の特性を生かした造形を考え、制作する。 （6.5時間） ・木材の特性を考えた設計図づくり ・見通しをたて、計画的に制作する	○		○		関 創 表情、観察 観察、作品 プリント（スケッチ）
4 相互鑑賞会 （1.5時間） ・鑑賞プリントの準備 （自分の作品カード、友人作品の紹介文記入） ・作品の思いやよさについて理解し認め合う。	○			○	関 鑑 表情、観察、対話 対話、記述（プリント）

6 本時の学習（本時 11 / 11時）

(1) 目標

仲間の作品を鑑賞し、よさや美しさ、作者の制作意図や工夫などを感じ取り味わう。

(2) 準備

- 教師：感想用紙、はさみ、のり、役割分担表
- 生徒：鑑賞カード、はさみ、のり、教科書、資料集、ファイル、筆記用具

(3) 展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点 [共]：[共通事項に係る内容]	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法等】
導入 5分	○前回の学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。 ・鑑賞会の流れについて ・発表と鑑賞の態度、心構えについて	・前回からの授業の流れと、本時の目標を確認させる。 ・鑑賞の時間を確保するため、簡潔に説明を行う。	関 本時の目標を理解し、鑑賞する意欲を高めている。 【観察・表情】 ◎準備をすませ、意欲的に教師の話聞いて授業内容を理解しようとしている。

<p>展開 35分</p>	<p>○グループ鑑賞会（20分） ①友人の作品紹介 ②作者発表 ③感想記入</p> <p>○クラス鑑賞会（10分） ・気に入った作品に対する感想記入</p> <p>○まとめ（5分） ・感想用紙の整理 ・鑑賞会の感想記入</p>	<p>・状況を把握し、進行が滞っている場合は指導する。 ・マナーを守って鑑賞させる。 ・仲間の作品鑑賞から、<u>目的や機能との調和のとれた形や、木肌の美しさ</u>などを読みとり、<u>感じ取ったことを記入させる。</u> 〔共〕</p> <p>・感想用紙を多めに準備し、足りなくなった生徒に使用させる。</p>	<p>関 仲間の作品に関心をもち、主体的に鑑賞しようとしている。 【観察・表情・対話】</p> <p>鑑 目的や機能との調和のとれた美しい形や色彩などを感じ取り味わっている。 【観察・表情・記述】</p> <p>◎自分や仲間の作品のよさを味わい、いろいろな見方や感じ方、発想の仕方などを学び取り、発表している。</p> <p>◆話し合い活動が不得手な生徒には、教師が質問し考えを引き出したり、「面白い作品があるよ」「欲しい作品はある？」といった声かけをしたりして、より積極的な活動へと促す。</p>
<p>整理 10分</p>	<p>○おすすめ作品の紹介 ・生徒発表（2～3名）</p> <p>○本時の活動を振り返り、目標を達成できたか確認する。</p>	<p>・鑑賞会で得たことから、自己の作品をふり返る。 ・他の人の意見を聞いて、新しい発見や感じ方の変化があったら記入させる。 ・木の特性や、工芸作品のよさを再認識させる。</p> <p>・鑑賞会を終えて、自分や他者の作品のよいところや好きなところをまとめる。</p>	<p>関 表現の多様性や、木工芸のよさを今後の学習や生活に生かそうとしている。 【観察・表情・記述】</p> <p>◎本題材で学んだことをこれからの授業や生活に生かそうとしている。</p>

◎：十分に満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

私の授業の観てほしいポイント

題材名 「手作りを味わう喜び」～機能のある小物作り（木材加工）～

学習内容 鑑賞

- ・ 仲間の作品を鑑賞し、よさや美しさ、作者の制作意図や工夫などを感じ取り味わう。

- 1 「仲間の作品紹介」は、生徒の主体的な鑑賞に結びついているか。また、作品カードや鑑賞カードは手立てとして有効であったか。

- 2 生徒が、木材の特性や美しさを味わいながら学習することができていたか。

- 3 構想を練り、表現方法を工夫することで、表現の幅が広がる題材となっているか。

